

岐阜県では平成20年4月より、「障害」を「障がい」と表記することとしているが、国や県が定める法令に規定されている用語、名称等や団体、機関等の固有名称は「障害」の表記を用いることとしているため、本試験においては、「障害」の表記で統一して出題している。

令和4年度採用 中学校専門 保健体育

志願種別	
受験番号	

【11】 下線部(A)～(E)のうち、「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編(平成29年7月 文部科学省) 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕 2 内容 D 水泳〔第3学年〕 オ 複数の泳法で泳ぐこと、又はリレーをすること」について記載した内容として、言葉が正しいものを○、誤っているものを×としたとき、○×の正しい組合せを次の①～⑤の中から一つ選べ。

オ 複数の泳法で泳ぐこと、又はリレーをすること。  
 複数の泳法で泳ぐとは、これまで学習したクロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの4種目から (A) 2～4種目を選択し、続けて泳ぐことである。  
 リレーをすることは、(B) 競泳的なリレー種目として、単一の泳法や複数の泳法を使ってチームで競い合うことである。  
 指導に際しては、リレーを行う場合は、(C) 飛び込みからのスタートとの関連から、引継ぎは飛び込みで行わせるようにする。また、(D) 複数の泳法で泳ぐ場合の距離は (E) 25～50m程度を目安とし、リレーの距離はチームで100～200m程度を目安とするが、生徒の体力や技能の程度などに応じて弾力的に扱うようにする。

	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
①	×	○	×	○	×
②	×	×	○	×	○
③	○	○	○	×	○
④	×	×	×	○	×
⑤	○	○	×	○	○

【12】 次の文章は、「学校体育実技指導資料 第4集 水泳指導の手引（三訂版）（平成26年3月 文部科学省） 第3章 技能指導の要点 第3節 泳法指導の要点 2 平泳ぎ」の記載内容の一部である。（A）～（E）に当てはまる正しい言葉の組合せを次の①～⑤の中から一つ選べ。

(1) 脚の動作

ア 両足先をそろえて伸ばした状態から、両膝を引き寄せながら肩の幅に開き（この時、足首はまだリラックス）、同時に足の裏を（A）にして踵を尻の方へ引き寄せる。

イ けり始めは、親指を外向きにし、土踏まずを中心とした足の裏で水を左右後方に押し出し（この時、足先をしっかりと外向きに保つ）、膝が伸びきらないうちに両脚で水を押し挟み、最後は両脚を揃えてける。（この時、足首もしっかり伸ばして揃える。足裏が上向き。）

ウ けり終わったら、（B）。

(2) 腕の動作

ア 両手のひらを下向きにそろえ、腕の前、あごの下から水面と平行に前方へ出す。

イ 両手のひらを斜め外向きにして（C）に水を押し開きながら腕を曲げ、手のひらと前腕を後方に向ける。

ウ 両肘が肩の横にくるまで手をかき進めたら、両腕で内側後方に水を押しながら（D）の前で揃える。

(3) 呼吸法

ア 呼気は、（E）で、鼻と口で行う。徐々に吐き出し始め、最後は力強く吐き出す。

(以下略)

※上記のア～ウは原文では①，②，③であるが、出題の①，②，③と区別するため、ア～ウで表記することとする。また、原文で引かれている下線は削除してある。

- ① A 横向き B 惰力を利用してしばらく伸びをとる C 左右 D 顔 E 水面
- ② A 上向き B すぐに両膝を引き寄せる C 前後 D 胸 E 水中
- ③ A 上向き B 惰力を利用してしばらく伸びをとる C 左右 D 胸 E 水中
- ④ A 横向き B すぐに両膝を引き寄せる C 前後 D 胸 E 水面
- ⑤ A 上向き B すぐに両膝を引き寄せる C 左右 D 顔 E 水中

【13】 下線部 (A) ~ (E) のうち、「中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 保健体育編 (平成29年7月 文部科学省) 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容 [保健分野] 2 内容 (1)健康な生活と疾病の予防」について記載した内容として、言葉が正しいものを○、誤っているものを×としたとき、○×の正しい組合せを次の①~⑤の中から一つ選べ。

㊦ 喫煙と健康

喫煙については、たばこの煙の中にはニコチン、タール及び (A) 一酸化炭素などの有害物質が含まれていること、それらの作用により、毛細血管の (B) 膨張、心臓への負担、運動能力の低下など様々な急性影響が現れること、また、常習的な喫煙により、がんや心臓病など様々な疾病を起こしやすくなることを理解できるようにする。特に、未成年者の喫煙については、身体に大きな影響を及ぼし、(C) タールの作用などにより依存症になりやすいことを理解できるようにする。

㊧ 飲酒と健康

飲酒については、酒の主成分の (D) メチルアルコールが中枢神経の働きを低下させ、(E) 思考力、自制力、運動機能を低下させたり、事故などを起こしたりすること、急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし意識障害や死に至ることもあることを理解できるようにする。また、常習的な飲酒により、肝臓病や脳の疾病など様々な疾病を起こしやすくなることを理解できるようにする。特に、未成年者の飲酒については、身体に大きな影響を及ぼし、(D) メチルアルコールの作用などにより依存症になりやすいことを理解できるようにする。

	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
①	○	×	×	×	○
②	○	×	○	○	×
③	×	×	×	○	○
④	×	○	×	○	○
⑤	○	○	○	×	×

- 【14】 下線部 (A) ~ (E) のうち、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕 2 内容 C 陸上競技〔第1学年及び第2学年〕 オ 走り高跳び」について記載した内容として、言葉が正しいものを○、誤っているものを×としたとき、○×の正しい組合せを次の①~⑤の中から一つ選べ。

オ 走り高跳び

走り高跳びは、リズムカルな助走から (A) 力強く踏み切り、より高いバーを越えたり、競争したりできるようにする。

リズムカルな助走とは、スピードよりもリズムを重視した踏み切りに移りやすい助走のことである。

(A) 力強く踏み切とは、助走スピードを効率よく上昇する力に変えるために、(B) 足裏全体で強く地面を押すようにキックすることである。

大きな動作とは、はさみ跳びでバーを越える際の両脚の大きなはさみ動作のことである。

〈例示〉

(中略)

・ (C) 跳躍の頂点とバーの位置が合うように、自己に合った踏切位置で踏み切ること。

(中略)

〈用語の説明〉

(中略)

走り高跳びにおける「はさみ跳び」とは、バーに対して斜め後方や正面から助走し、踏み切った後、振り上げ足から順にバーをまたいで越える (D) またぎ跳びや、両足を交差させて大きく開き、上体を横に倒しながらバーを越える (E) ベリーロールなどの跳び方のことである。

	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
①	○	○	○	○	×
②	×	×	○	×	○
③	○	○	×	×	○
④	×	○	○	×	×
⑤	○	×	×	○	○

【15】 下線部 (A) ~ (E) のうち、「中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 保健体育編 (平成29年7月 文部科学省) 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容 [体育分野] 2 内容 B 器械運動 [第1学年及び第2学年] イ 鉄棒運動」の記載内容として、言葉が正しいものを○, 誤っているものを×としたとき, ○×の正しい組合せを次の①~⑤の中から一つ選べ。

イ 鉄棒運動

支持系や懸垂系の基本的な技とは、支持系の前方支持回転技群、後方支持回転技群の基本的な技、懸垂系の懸垂技群の基本的な技を示している。

〈支持系の例示〉

- 前方支持回転技群 (支持体勢から前方に回転する)
  - ・ (中略)
  - ・ 開始姿勢や終末姿勢, (A) 組合せの動きや鉄棒の握り方などの条件を変えて前方に回転すること。
  - ・ (中略)
- 後方支持回転技群 (支持体勢から後方に回転する)
  - ・ 回転の勢いをつくるための動き方, (B) バランスよく支持体勢になるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして後方に回転すること。
  - ・ (中略)

〈懸垂系の例示〉

- 懸垂技群 (懸垂体勢で行う)
  - ・ (C) 振動の幅を小さくするための動き方, 安定した振動を行うための鉄棒の握り方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして体を前後に振ること。
  - ・ (中略)
  - ・ 学習した基本的な技を発展させて, (D) ひねったり跳び上がったりすること。

それらを組み合わせるとは、同じグループや異なるグループの基本的な技、条件を変えた技、発展技の中から、いくつかの技を (E) 「上がる一回る一下りる」 に組み合わせて行うことを示している。

	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
①	○	×	×	○	○
②	×	○	×	○	×
③	○	×	○	×	○
④	×	×	○	○	×
⑤	○	○	×	×	○

- 【16】 次の文章は、「学校体育実技指導資料 第10集 器械運動指導の手引（平成27年3月 文部科学省） 第4章 器械運動系の指導と安全 第3節 器械運動系の指導の安全管理 5. 跳び箱運動」の記載内容の一部である。（A）～（E）に当てはまる正しい言葉の組合せを次の①～⑤の中から一つ選べ。

#### 5. 跳び箱運動

報告されている学校管理下の傷害発生件数で、小学校では跳び箱が多くなっています。この事実を踏まえて、次の点に配慮して指導するようにします。

一つ目は、跳び箱運動で要求される動きや感覚を高めておくことです。具体的には、（A）で回転感覚を高めておくことであり、（B）等の切り返し系の技に類似した運動を十分に指導しておくことです。

二つ目は、安全な場づくりです。落下の心配がある（C）の指導では、跳び箱の両側にマットを敷いたり、補助の仲間を配置したりすることです。着地に柔らかいマットを準備しておくことも、児童生徒が安心して取り組むことに役立ちます。

三つ目は、決して無理をさせないことです。低い跳び箱が易しい条件と限りませんし、高さばかりを追求する授業は危険という他ありません。跳び箱運動では、技能にあった高さを選び、余裕と雄大さを感じさせる技の実施を目指すようにします。

四つ目は、授業で取り上げる技の順番に配慮することです。具体的には、同じ授業内で回転系と切り返し系の両方を指導する場合、（D）系を先に取り上げると、（E）系の学習の際に（D）感覚が残っていて事故につながる可能性がありますから、（E）系を先に取り上げるようにします。

- ① A マット運動                      B ゆりかごやかえるの逆立ち                      C 台上前転  
D 切り返し                              E 回転
- ② A マット運動                      B 馬跳びやウサギ跳び                              C 屈伸跳び  
D 切り返し                              E 回転
- ③ A 鉄棒運動                              B ゆりかごやかえるの逆立ち                      C 台上前転  
D 回転                                      E 切り返し
- ④ A マット運動                              B 馬跳びやウサギ跳び                              C 台上前転  
D 回転                                      E 切り返し
- ⑤ A 鉄棒運動                              B 馬跳びやウサギ跳び                              C 屈伸跳び  
D 切り返し                              E 回転

- 【17】 次の(ア)～(ケ)のうち、「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編(平成29年7月 文部科学省) 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕 2 内容 E 球技〔第1学年及び第2学年〕 ウ ベースボール型」に記載されている例示として正しい組合せを下記の①～⑤の中から一つ選べ。

基本的なバット操作

- (ア) 投球の方向と平行に立ち、肩越しにバットを構えること。
- (イ) タイミングを合わせてボールを捉えること。

走塁

- (ウ) スピードを落とさずに円を描くように塁間を走ること。
- (エ) 打球の状況によって塁を進んだり戻ったりすること。

ボール操作

- (オ) 捕球場所へ最短距離で移動して、相手の打ったボールを捕ること。
- (カ) ねらった方向へステップを踏みながら、一連の動きでボールを投げること。
- (キ) 守備位置から塁上へ移動して、味方からの送球を受けること。

定位置での守備

- (ク) 決められた守備位置に繰り返し立ち、準備姿勢をとること。
- (ケ) 打球や走者の位置に応じて、中継プレイに備える動きをすること。

- ① (ア), (ウ), (キ), (ケ)
- ② (ア), (エ), (キ), (ク)
- ③ (イ), (ウ), (オ), (ケ)
- ④ (イ), (ウ), (カ), (ク)
- ⑤ (イ), (エ), (オ), (ケ)

【18】 次の表は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕 2 内容 F 武道」に記載されている柔道の技能の学習段階の例である。（A）～（E）に当てはまる正しい語句の組合せを次の①～⑤の中から一つ選べ。

		中学校1・2年	中学校3年
投げ技	支え技系	( B )	→
		支え釣り込み足	→
	( A )	体落とし	→
		大腰	→
			( D ) 背負い投げ
	刈り技系	( C )	→
		小内刈り 大内刈り	
固め技 (抑え技)	けさ固め系	けさ固め	→
	四方固め系	横四方固め	→
			( E )
技の連絡	投げ技の連絡		大内刈り⇒大外刈り
			釣り込み腰⇒大内刈り
			大内刈り⇒背負い投げ
	固め技の連絡		けさ固め⇒横四方固め
		横四方固め⇒( E )	

※表中の「→」は既習技を示している。

- ① A まわし技系      B 出足払い      C 小外刈り      D 跳ね腰  
E 上四方固め
- ② A 背負い技系      B 膝車      C 小外刈り      D 釣り込み腰  
E 上四方固め
- ③ A まわし技系      B 出足払い      C 大外刈り      D 釣り込み腰  
E 肩固め
- ④ A まわし技系      B 膝車      C 大外刈り      D 釣り込み腰  
E 上四方固め
- ⑤ A 背負い技系      B 出足払い      C 大外刈り      D 跳ね腰  
E 肩固め



- 【19】 下線部 (A) ~ (E) のうち、「中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 保健体育編 (平成29年7月 文部科学省) 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容 [体育分野] 2 内容 G ダンス [第1学年及び第2学年] ウ 現代的なリズムのダンス」の記載内容として、語句が正しいものを○, 誤っているものを×としたとき, ○×の正しい組合せを次の①~⑤の中から一つ選べ。

ウ 現代的なリズムのダンス

現代的なリズムのダンスは, ロックやヒップホップなどの現代的なリズムの曲で踊るダンスを示しており, リズムの特徴を捉え, (A) 変化のある動きを組み合わせて, リズムに乗って体幹部 (重心部) を中心に全身で自由に弾んで踊ることをねらいとしている。

リズムの特徴を捉えとは, 例えば, ロックの場合は, (B) シンプルなビートを強調することを示している。また, ヒップホップの場合は, ロックよりも (C) 速いテンポで強いアクセントがあるため, 1拍ごとにアクセントのある (D) 統合化されたビートを強調することを示している。

(A) 変化のある動きを組み合わせてとは, 手拍子, 足拍子, スキップ, 片足とび, 両足とび, 蹴る, 歩く, 走る, ねじる, 回る, 転がる, 振る及び曲げるなどの動きを素早く動いてみたり, 止まったりすることを組み合わせ, (E) 続けて踊ることを示している。

(以下略)

	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
①	○	○	×	×	×
②	○	○	×	×	○
③	×	×	○	○	×
④	×	○	○	×	○
⑤	○	×	○	○	×

【20】 次の文章は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕 3 内容の取扱い」の記載内容の一部である。（ア）～（オ）に当てはまる正しい語句の組合せを次の①～⑤の中から一つ選べ。

(1) 内容の各領域については、次のとおり取り扱うものとする。

- i 第1学年及び第2学年においては、「（ア）」から「H体育理論」までについては、全ての生徒に履修させること。その際、「（ア）」及び「H体育理論」については、（イ）履修させること。
- ii 第3学年においては、「（ア）」及び「H体育理論」については、全ての生徒に履修させること。「B器械運動」、「C陸上競技」、「D水泳」及び「（ウ）」についてはいずれかから（エ）以上を、（オ）についてはいずれか一以上をそれぞれ選択して履修できるようにすること。

※上記の i, ii は原文では、ア, イであるが、出題の（ア）、（イ）と区別するため i, ii と表記することとする。

- |   |                   |                                |        |
|---|-------------------|--------------------------------|--------|
| ① | ア A体ほぐしの運動<br>エ ー | イ いずれかの学年で<br>オ 「F武道」及び「Gダンス」  | ウ E球技  |
| ② | ア A体づくり運動<br>エ 二  | イ いずれかの学年で<br>オ 「E球技」及び「Gダンス」  | ウ F武道  |
| ③ | ア A体づくり運動<br>エ ー  | イ 2学年間にわたって<br>オ 「E球技」及び「F武道」  | ウ Gダンス |
| ④ | ア A体づくり運動<br>エ ー  | イ いずれかの学年で<br>オ 「E球技」及び「F武道」   | ウ Gダンス |
| ⑤ | ア A体ほぐしの運動<br>エ 二 | イ 2学年間にわたって<br>オ 「F武道」及び「Gダンス」 | ウ E球技  |

【21】 『令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書（令和元年12月 スポーツ庁） 第2章 テーマ分析&取組事例 1 「運動やスポーツが楽しいとき」 から見える運動が苦手な児童生徒の特徴』に記載されている、「体力総合評価DE群の児童生徒が体育の授業で『できなかったことができるようになった』きっかけ」として、中学生の回答の割合が最も高かったものを次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 友達に教えてもらった
- ② 授業中に自分の動きを撮影した動画を見た
- ③ 授業中に自分で工夫して練習した
- ④ 授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった
- ⑤ 授業外の時間に自分で練習した

- 【22】 下線部 (A) ~ (E) のうち、「令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果のポイントについて (令和元年12月 スポーツ庁) 調査結果の概要 1 児童生徒の体力の状況 (1) 体力合計点の状況」の記載内容として、言葉が正しいものを○、誤っているものを×としたとき、○×の正しい組合せを次の①~⑤の中から一つ選べ。

平成20年度の調査開始以降の推移をみると、令和元年度は小・中学生の男女ともに低下した。小・中学生ともに、女子よりも男子が大きく低下しており、特に、(A) 中学生男子は過去最低の数値であった。

(中略)

主な背景

- 授業以外の運動時間の減少 ⇒ 1週間の運動時間が (B) 420分以上の割合が小・中学生ともに減少。
- スクリーンタイム\*の増加 ⇒ 小・中学生ともに増加しており、特に (C) 女子が長時間化している。
- (D) 肥満である児童生徒の増加 ⇒ 小・中学生ともに増加。
- (E) 朝食を食べない児童の増加 ⇒ 小学生が増加。ただし、中学生は変化なし。

\*スクリーンタイム…平日1日当たりのテレビ，スマートフォン，ゲーム機等による映像の視聴時間

	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
①	×	○	×	○	○
②	○	○	×	×	×
③	○	×	○	×	○
④	×	○	○	×	○
⑤	○	×	○	○	×

- 【23】 次の文章は、「がん教育推進のための教材（平成28年4月 令和3年3月一部改訂 文部科学省） 2 我が国におけるがんの現状」の記載内容の一部である。  
（ A ）～（ E ）に当てはまる正しい言葉の組合せを次の①～⑤の中から一つ選べ。

(1) がんは最も大きな健康課題

がんは、（ A ）から、日本人の死因の第1位となっています。

現在、日本人の（ B ）は、一生のうちに何らかのがんにかかると推計されています。また、日本人の死因の約（ C ）はがんとなっています。近年の我が国では、がんにかかる人は増え続けています。これらは、日本の人口の高齢化とも関連しています。

(2) がんの罹患（※1）の特徴

がんの罹患率は、年齢が上がるにつれて増加していきます。生涯では、性別で見ると、男性の方が女性より多くなっています。

喫煙や過度の飲酒など、がんのリスクを高める生活習慣が男性に多いことが主な原因と考えられ、近年では（ D ）、胃がん、大腸がんが多く報告されています。

しかし、子宮頸がんや乳がんが多い20歳代から50歳代までは、がんの罹患率は女性が男性よりやや高く、60歳代以降は（ E ）顕著に高くなっています。

（※1）罹患：病気にかかること。

- ① A 1951年      B 三人に一人      C 三割      D 肺がん  
E 男性が女性より
- ② A 1951年      B 二人に一人      C 五割      D 前立腺がん  
E 女性が男性より
- ③ A 1981年      B 二人に一人      C 三割      D 前立腺がん  
E 男性が女性より
- ④ A 1981年      B 二人に一人      C 五割      D 肺がん  
E 男性が女性より
- ⑤ A 1981年      B 三人に一人      C 三割      D 肺がん  
E 女性が男性より

- 【24】 次の文章は、「改訂「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き（追補版）保健体育（保健分野）第3学年指導事例 感染症の予防～新型コロナウイルス感染症～（令和2年3月 文部科学省）」の記載内容の一部である。（A）～（E）に当てはまる正しい語句の組合せを次の①～⑤の中から一つ選べ。

感染症の予防と対応

感染症予防の三原則は、「感染源の排除」「感染経路の遮断」「抵抗力を高める」である。

ア 「感染源の排除」とは、（A）、汚染源の排除、（B）などにより感染源となるものを除去することである。学校においては、流行情報の把握や健康観察等による感染症の兆候の早期発見、早期治療勧告、有症者の管理、汚染物の適切な処理などにより感染源となるものを遠ざけることである。

イ 「感染経路の遮断」とは、日頃から、（C）、換気、食品の衛生管理などを徹底させ、体内に感染源（病原体）を入れないようにすることである。

ウ 「抵抗力を高める」とは、バランスがとれた食事、（D）、規則正しい生活習慣を身に付けたり、（E）などして免疫力を高めることである。

- ① A 予防接種を受ける      B 密閉・密集・密接を避ける  
C 手洗いや咳エチケット      D 適度な運動      E 消毒
- ② A 患者の隔離      B 密閉・密集・密接を避ける  
C 予防接種を受ける      D 手洗いや咳エチケット      E 消毒
- ③ A 患者の隔離      B 消毒  
C 手洗いや咳エチケット      D 適度な運動      E 予防接種を受ける
- ④ A 患者の隔離      B 消毒  
C 適度な運動      D 手洗いや咳エチケット      E 予防接種を受ける
- ⑤ A 予防接種を受ける      B 消毒  
C 患者の隔離      D 適度な運動      E 手洗いや咳エチケット

【25】 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編（平成29年7月文部科学省）第3章 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画の作成」の記載内容に「オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実を図る観点から、パラリンピック競技大会で実施されている種目などの障害者スポーツを体験するなどの工夫も考えられる。その際、障害の程度や特性にかかわらず、全ての生徒が実施可能な体験となるように留意することが大切である。」とある。

そこで、東京2020パラリンピック競技大会で実施予定でない競技を次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① ボッチャ
- ② スポーツクライミング
- ③ ゴールボール
- ④ シットイングバレーボール
- ⑤ 卓球

【26】 次の文章は、「スポーツ基本法（平成23年法律第78号）（条文）」の記載内容の一部である。（A）～（E）に当てはまる正しい語句の組合せを次の①～⑤の中から一つ選べ。

第一条 この法律は、スポーツに関し、（A）を定め、並びに国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の（B）等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めることにより、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって国民の心身の（C）発達、明るく豊かな国民生活の形成、（D）社会の実現及び（E）の調和ある発展に寄与することを目的とする。

- ① A 基本理念 B 義務 C 健全な D 持続可能な E 国際社会
- ② A 基本計画 B 努力 C 健全な D 活力ある E 日本国内
- ③ A 基本計画 B 義務 C 著しい D 活力ある E 日本国内
- ④ A 基本理念 B 努力 C 健全な D 活力ある E 国際社会
- ⑤ A 基本理念 B 努力 C 著しい D 持続可能な E 日本国内



- 【27】 次の各文章は、「公益財団法人日本バスケットボール協会 2021バスケットボール競技規則」についてまとめたものである。(A)～(E)に当てはまる正しい言葉の組合せを次の①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- ① A バイオレーションであり、得点は認められない  
B バイオレーションであり、得点は認められない C バイオレーションになる  
D 5秒 E 0.3秒以上を表示していなければならない
- ② A 相手チームに2点が与えられる  
B バイオレーションであり、得点は認められない C バイオレーションになる  
D 5秒 E 0.1秒以上を表示していなければならない
- ③ A バイオレーションであり、得点は認められない  
B 相手チームに2点が与えられる C 得点は認められる  
D 8秒 E 0.1秒以上を表示していなければならない
- ④ A 相手チームに2点が与えられる  
B 相手チームに2点が与えられる C 得点は認められる  
D 8秒 E 0.3秒以上を表示していなければならない
- ⑤ A 相手チームに2点が与えられる  
B バイオレーションであり、得点は認められない C バイオレーションになる  
D 5秒 E 0.3秒以上を表示していなければならない

- 【28】 次の各文章は、「公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則（2021年4月修正）」についてまとめたものである。（A）～（E）に当てはまる正しい言葉の組合せを次の①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- ① A 各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後に不正スタートした競技者は  
B 受け手（後走者） C 片足で踏み切らなければならない D 無効試技  
E その脚
- ② A 一度の不正スタートでも責任を有する競技者は  
B 渡し手（前走者） C 片足で踏み切らなければならない D 無効試技  
E その胴体
- ③ A 一度の不正スタートでも責任を有する競技者は  
B 受け手（後走者） C 両足で踏み切ってもよい D 無効試技  
E その胴体
- ④ A 各レースの不正スタートは1回のみとし、その後に不正スタートした競技者は  
B 渡し手（前走者） C 両足で踏み切ってもよい D 有効試技  
E その胴体
- ⑤ A 一度の不正スタートでも責任を有する競技者は  
B 渡し手（前走者） C 片足で踏み切らなければならない D 有効試技  
E その脚

【29】 次の各文章は、「公益財団法人全日本剣道連盟 剣道試合審判規則 剣道試合者要領」についてまとめたものである。( A )～( E )に当てはまる正しい言葉の組合せを次の①～⑤の中から一つ選べ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- ① A 相中段に構え B 残心  
C つか（柄）及びつば（鍔）を含めた竹刀全体 D 禁止行為である  
E 相中段の姿勢で
- ② A そんきょ（蹲踞）し B スピード  
C つか（柄）及びつば（鍔）を含めた竹刀全体 D 禁止行為ではない  
E 相中段の姿勢で
- ③ A 相中段に構え B スピード  
C 物打を中心とした刃部（弦の反対側） D 禁止行為である  
E そんきょ（蹲踞）して納刀し、立ち上がり帯刀姿勢で
- ④ A そんきょ（蹲踞）し B 残心  
C 物打を中心とした刃部（弦の反対側） D 禁止行為である  
E そんきょ（蹲踞）して納刀し、立ち上がり帯刀姿勢で
- ⑤ A そんきょ（蹲踞）し B 残心  
C 物打を中心とした刃部（弦の反対側） D 禁止行為ではない  
E そんきょ（蹲踞）して納刀し、立ち上がり帯刀姿勢で

【30】 下線部 (A) ~ (D) のうち、「第3次 岐阜県教育ビジョン 第3章 施策の体系 目標16 体力づくりの推進」の中の「取り組むべき主な施策」の記載内容として、言葉が正しいものを○、誤っているものを×としたとき、○×の正しい組合せを次の①~⑤の中から一つ選べ。

(中略)

(2) 幼児児童生徒の体力づくりの推進

- ・ 体育・保健体育の授業における体力向上を図るため、体育指導者の資質や指導力向上を図る養成研修等に教諭を派遣し、伝達講習会等を実施します。
- ・ 幼稚園、保育所、認定こども園等での、(A) 競技力の育成を目指した幼児の運動遊びの充実を図り、幼稚園や保育所、認定こども園等と小学校で系統性を持たせた体力向上の取組を推進します。
- ・ 「チャレンジスポーツ in ぎふ」のホームページをリニューアルし、Webを活用した体力向上への取組を更に推進します。

(3) 専門的技量を有する社会人指導者の計画的な派遣による運動部活動の活性化

- ・ 運動部活動の活性化・充実に向け、(B) 全員加入を推進する等の環境を整備するとともに、県立学校に対して、専門的技量を有する社会人指導者を派遣します。  
また、単独引率や指導が可能な部活動指導員の活用を進めます。
- ・ 運動部活動における社会人指導者や部活動指導員に対して研修会を実施し、(C) 指導力の向上を図ります。

(4) 部活動ガイドラインを踏まえた適切な部活動の推進

- ・ 部活動ガイドラインを踏まえ、生徒の安全の確保、教職員の長時間勤務の解消等の観点から、学校ごとに適切な (D) 休養日や活動時間を設定します。

※上記の(2)、(3)、(4)は原文では、②、③、④であるが、出題の②、③、④と区別するため、(2)、(3)、(4)で表記することとする。

	(A)	(B)	(C)	(D)
①	○	×	×	○
②	○	○	×	×
③	×	×	○	×
④	○	○	×	○
⑤	×	×	○	○





令和4年度採用 岐阜県公立学校教員採用選考試験  
第1次選考試験 中学校専門 保健体育

問題番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正解	⑤	③	①	①	⑤	④	②	④	②	③

問題番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正解	①	①	③	③	②	④	⑤	②	④	⑤

